

まちかど・ズームIN!

みなさんからの素敵な情報を待ってます!

超一流の演技を堪能

新体操模範演技会



9月に開催されるシドニーオリンピックに向けた新体操の日本チームの強化合宿が、5月25日から28日までキューブで行われました。

また、平成13年のみやぎ国体で、白石市は新体操競技の開催地となっていることから、新体操を広く知ってもらおうと、27日には模範演技会が開かれました。演技会では、個人代表の松永里絵選手をはじめ9名の選手が、フープやリボンなどを使って華麗な演技を披露しました。

荘厳と優雅の世界、白石城

白石城復元5周年記念「城の会」



をはじめ日本舞踊や箏曲、詩吟、横笛などが披露され、訪れた市民や見学者は夜遅くまで古典芸能の幽玄さを堪能しました。



市内の伝統芸能団体が参加して毎年行われている「城の会」が、今年は「白石城復元5周年記念城の会」として5月20日、白石城で開催されました。当日は、あいにくの雨のため、野だては歴史探訪ミュージアムで、野外の特設舞台で予定していた舞踊などは天守閣で行われました。

天守閣では、特別出演の喜多流能楽師・佐々木宗生さんの仕舞「田村」

障害者と市民が畑で交流

ふれあい農園オープン



障害を持った方々と地域住民が、園芸作物の栽培を通じて交流を図る「ふれあい農園」が5月31日、白石陽光園の東側丘陵地にオープンしました。ふれあい農園は、市が県の補助を受けて整備したもので、障害者用10㎡と一般市民用10㎡の畑のほか、3㎡分の温室もあります。

開園式には、陽光園の園生や一般利用者など約50人が参加し、テープカットに続いて、温室につくった畑にシシトウの苗を植えました。

自然観察の場

「どうだんの森」開園



水芭蕉の森に隣接するサラサドウダンの群生地、平成9年から整備を進めていた「どうだんの森」が5月29日にオープンしました。約1.7畝のどうだんの森には、サラサドウダン約1万本が自生しており、散策できる木道や案内板を整備したほか、現地にマッチしたツツジも植栽されています。

五月晴れとなったこの日は、野草に親しむ会や婦人会などの会員約80人が園内を散策し、心地よい森林浴を楽しみました。

市民の支えに感謝

不忘アザレアが市へ寄付

市の委託を受け、白石スキー場を運営しているNPO法人「不忘アザレア」が、今シーズンの営業決算で黒字となったため、黒字額のほとんどの2千万円を市に寄付しました。



5月26日、市役所を訪れた不忘アザレアの三浦義邦理事長は「黒字となったのは、市の協力やスキー場を支えたいという市民の熱意があったから。地元への感謝の気持ちを込めて寄付しました。」と話されました。市ではこの寄付金を、市内のボランティア団体の活動を支援するために利用することにしています。

あの教訓を忘れずに!

白石市総合防災訓練



宮城県沖地震や阪神大震災を教訓として、大規模地震の発生を仮定した白石市総合防災訓練が、6月12日、約1,100名が参加して行われました。主会場となった東北日通工(株)では、工場内に取り残された従業員を想定して、救出訓練や応急措置などが実施されました。

このほか、倒壊した家屋や事故車両に閉じ込められた人が救出訓練や、初期消火・煙中避難、電気や上下水道などの復旧訓練が行われ、参加者は、いざというときに備え真剣に取り組んでいました。

楽しみながら健康に!

市民グラウンドゴルフ大会



白石川緑地公園で6月4日、133名が参加して、第9回市民グラウンドゴルフ大会が開かれました。ホールインワンあり、コース外への飛び出しありと、老若男女を問わず、楽しんでいました。各部門の優勝者は次のとおりです。(敬称略)

団体の部：小原Aチーム
個人の部：シニア(60歳以上)古山正雄、オープン・阿部明彦、ジュニア(中学生以下)伊藤光太

五月十八日、第百三十六回東北市長会が仙台でもたれた。その中の研修で仙台城の石垣復元の現場視察があった。

「(きりこみはぎ)は第三期工事のものであり、発掘によって一期目の野面積(のづらづみ)や二期目の石垣の一部が発見されるなど、連日のようにマスコミをにぎわしているが、その堅牢さと雄大さ、そしてスクラップアンドビルドではなく、二期目の石垣のために二期目の石垣が十分に利用され、補強の役を果たしている当時の土木技術の素晴らしさに驚嘆した。観光を優先すべきか、歴史的遺産の保全を主にすべきか、十分に議論を尽くしてもらいたいものである。」



川井市長の
せせらぎトーク

東北市長会にて

で、その故をもって乾杯の音頭をとるようにと言われた。最初は型どりに乾杯と言おうと思っていたのだが、その前のあいさつで東北市長会会長である仙台市長が素晴らしいスピーチをされたので、私もひとこと話をさせていただきます。

先程ご覧になった仙台城の説明にちょっとだけ付け加えさせていただきますと、仙台空襲によって惜しくも消失した大手門は、

かつて国宝に指定されておりました。仙台城の外堀とも言われる川を挟んで、大手門に至る道の両側をがっちり固めていた二つの屋敷があります。一つは白石の片倉小十郎の屋敷であり、もう一つは水沢伊達の屋敷であります。肝心の殿様は二の丸にいて、良きに計らえと言っているのうと過ごしてはいたはずであります。

時代が変わりまして、水沢は岩手県になりましたので問題はないのですが、白石片倉は宮城県にとどまりました。なんせうちの殿様が伊達藩の門番だったわけですから、その故をもって今でも私は藤井さんにあこがれられております。(満場爆笑)

つまり、雑巾がけ専門であるということですが、その労をねぎらって、本来、藤井市長がおなりになるべきであった全国市長会の副会長に私を指名し、今日東北市長会の市長の皆様方のご承認を頂いたと理解をしております。

(そつだ、そつだのかけ声あり。青森市長かな)したが、今後任期中はぜひ全国のこと、東北の市長会のための雑巾がけに徹するつもりで

あります。」と言って乾杯と納めた。降壇すると藤井市長曰く、「僕のあこはそんなに長くないはずなんだがな。始めの切り出しから一体どこで落とすのかと心配していたら、見事に落とされたんだ。」

秋田県能代市長からは「政宗の小十郎に対する信頼は大変なものです。白石城を復元した川井さんも片倉家臣団の一人なんですから」と問いかけられた。

隣にいた山形県村山市市長曰く、「とんでもない。片倉は米沢の在で始めて伊達輝宗に見いだされて仕えたのだから、本来山形県人だ。川井さんはさっきの総会で、十五年勤続表彰の記念品代をもらえるかどうか心配していたくらいだから、多分商人上がりだろう。」

村山市長の佐藤昌一郎さんは同じ学校の先輩で、藤井仙台市長、富塚鶴岡市長、そして私と続く系列のトップにテンと座っているの、威張らせておくほかない。それにしてもそこまでバラすことはないでしょう。キューブを絶賛していた石川錬治郎秋田市長のツメのアカでも煎じて飲ませてやりたい。